

第二回無料塾シンポジウム 議事録

1、開会あいさつ・・・小宮位之 八王子つばめ塾理事長

2、各団体の活動紹介

①【八王子つばめ塾】（東京都八王子市）

机と椅子とホワイトボードがあり、自由に使える建物（義母所有の元学生寮）がある。2012年9月の開始時点では、私と中学生の子、1対1で始めた。現在は、生徒100人に対し先生70人。6つの教室を開いている。

入塾条件は、

- ・経済的に苦しいと感じている
- ・他の無料塾に行っていない
- ・本人にやる気がある。

この3つ。

月に1000円の施設利用料を今年から取っている。

生徒の状況は、母子家庭が6割。共働きが4割程度。

子沢山な家庭も多い、3人以上が目立つ。

先生は社会人と学生が半々。男性講師が少し多い。

社会人は仕事が終わった後や土日の昼に顔を出す。

教室によって開催曜日が違う。第一教室は本拠地なので毎日開いている。

もちろん、誰かしら先生がいる。時間割&シフトが決まっている。

理事長自身は、都営住宅に住む、年収150万円程度の貧困家庭に生まれた。

母方の親族に大学の授業料を出してもらって進学でき、教員免許を取れた。

八王子つばめ塾をやっていて、生徒の学力を単に上げるだけでなく、

生徒自身がいつかどこかでボランティアしたいと思ってもらえるように運営している。

理事長自身も、変な使命感でやるのではなく、楽しみながらしている。

②【阪神つばめ学習会】（兵庫県西宮市）

5月31日に「八王子つばめ塾」を見学。8月から始動した。

つばめという名前は、作ってから事後承諾。

凄い勢いで成長しているが、秘訣はなんなのか。
軽い雰囲気できている。なぜ軽くできているか。
入塾条件はない。私立行っている子も来ている。

<ホワイトボード記入>

Y 軸に親の意識、X 軸に子の意識。親の意識≒収入、子の意識≒学力。
日本の 4000 万世帯の収入の平均値は。537 万円程度。
中央値であれば、432 万円。
相対的貧困ラインは中央値の半分 210 万円程度。
相対的貧困ライン以下は 6 人に 1 人。

2014 年に児童養護施設へ見学したが、何故上手くいかないかわからなかった。児童養護施設の職員は 14 時から 32 時まで働いている。

休憩時間はあるが実質ゼロで 18 時間。命かけてできているが、そこまで勉強をしたいと思っている層の子ども達ではない。ボランティアでやるのはかなりの消耗を強いられる。

ではどうすればターゲット層にアプローチできるか。口コミで拡げていくしかない。だから、まずはボリュームのある真ん中のゾーンを受け入れていく。

しかし、1 つだけ条件がある。勉強したいと思っていること。

勉強したいが、勉強できない子どもがターゲット。

勉強したくない子どもに勉強教えるのは、行政と NPO に任せるべき。

阪神つばめ行ったら面白いし、色んな人と出会える。

自分が楽しまないと、組織は継続しない。

なるべく緩くしている。ターゲットの設定が大事だと感じている。

③【学びサポート さなぎの杜】（岐阜県揖斐郡大野町）

自己尊重感を高め、将来に期待を持ち、未来を展望できる子を 1 人でも多く育みたい。

かつて、食事がカップラーメン、納豆のみの子どもを目の当たりにした。挨拶しても、無表情。高校の選択肢もない。何かできないか考えたが、できなかった。2 年前にテレビを見ていたら、偶然にも無料塾の特集をしていた。いくつか検索していたら、八王子つばめ塾を見つけたのが経緯。

岐阜県揖斐郡大野町という田舎。

阪神つばめマッピングでいうと、真ん中のあたりを対象にしている。

今年の7月14日から岐阜県活性化事業5団体に選ばれた。
主には母子家庭、父子家庭、障害を抱えた方。
有料塾に行っている方にはお断りしている。
県からの補助金をもらい始めたため、生徒の線引きをし始めた。
線を引くのはよくないと感じているので、今後は薄くしようとは思っている。
講師のほとんどが主婦。自分たちの無理をしないで活動している。
岐阜の学習支援ネットワークに参加している
岐阜大学の教授や理学療法士に来ていただいている。
大人の話を通じて、子どもたちに学んでもらう。
2016年2月20日(土)に未来シンポジウムを企画中。
子どもたちの貧困は身近にあることを認識してほしい。行政と地域を絡めながら話し合いをしている。週1回公民館で開催しており、地域住民との関わり合いを大事にしている。

④【慈有塾】(東京都多摩市)

代表が27歳。15歳から25歳が対象。たまに連絡取れない子いる。
20名ちょっとの生徒で実質15名程度。
マッピングでいうと、左下になる。
やる気もないし、やることができない。大人になって、このままではいけないことに気付いて来る子が多い。そういう子も、具体的には何をしたらいいかわからない。だから一緒にジョギングするだけのときもある。
代表自身は、2008年に大学に入ってから、個人でボランティアをしてきた。
2013年に大学を卒業した後、人身取引被害者サポートセンター日本支部で働いた。対象の子達を助けた後にどうするのか気になったが、結局、性風俗産業で働くしかない。

無料塾で色々調べたら、八王子つばめ塾が出てきたのでご挨拶に行った。
ターゲットの対象年齢は違っても、心強い。

講師が少ないが、手伝ってくれるスタッフ見つかったので法人化したい。
うつ病とかリストカットしている子がいるが、中には「お金を払うから受け入れて欲しい」という相談もあり、受け入れている。
しんどい女の子が相談してくれる。シェルター事業もやっており、家に泊めたりしている。

講師の質に凄くこだわっている。一人で大学受験全教科ができる位のレベルの高い講師に来て欲しい。ボランティア要素は依然として強いものの、謝礼を払ってでも来てほしいと感じている。あと、人生経験を多く積んだ人がよい。ただ、そのような講師がなかなか見つからないので大変。学習計画は個別に立てるので、有料塾には決して負けないと自負している。試験の受験料以外はすべて無料。

生徒一人ひとは、みんな本が書けるくらい大変な経験をしている。ほとんど中卒。引きこもり。多重人格。うつ病はたくさんいる。今まで学ぶことを知らなかった、学ぶことを教えてくださってありがとうございます！と感謝されることもある。自立できるまで、いていいよ。家が大変な状況の子がいるので、そういう子には「家に帰りなさい」とは言わないことにしている。勉強以外のサポートが凄く多い。大学合格したら選択肢が広がる。貧困ではない、心の貧困。自分より年齢が上の人だとストレスを感じるので、そういう生徒は、近隣にある国分寺きずな塾さんをお願いしている。

⑤【まちづくり NPO うらそえ】（沖縄県浦添市）

1つの小学校に1つの児童センターが必要という条例がある。週2回、児童センターで、無料の学習支援を実施している。沖縄の教育、活動しようと思った理由は、「沖縄は教育に対する取り組みが進んでいない」から。貧困は全国でも最低ライン。自分自身は、かつて学習塾に勤務していたが、やめて、貧困に取り組んだ。沖縄はどれくらいやばいか。色々なワーストワンがある。

- ・ 200万未満の世帯が全国1位
 - ・ 非正規雇用者が全国1位
 - ・ 母子家庭の数が全国1位
 - ・ 高校進学率、大学進学率は全国最下位。
 - ・ 不良行為、警察に捕まる、全国1位
- 生徒の中には、警察と友達になっている子もいて、そういう子は注意だけ受けて、捕まらないことも多いので、実質の補導件数はもう少し上になるのではないかと思っている。

学校が終わると塾に行かないから、ふらふらして悪さをする。

塾に行きたくても通えない。

プラス、やんちゃな子は中学卒業後にちゃんと考えている子はいない。

高校に行かないでも沖縄では生きていける。祖父母と両親の家を行き来できる。

無料学習支援の認知度を上げていきたい。今、見ている生徒は12人。テストを受けていない子が3人。その中で最高得点110点/500点。

☆この場で3つのことを宣言する。

一、無料の宿題支援を取り入れる。沖縄県では定着していない。

→宿題を出さないと評定が1になる。

二、保護者への相談会を実施したい。

三、今日、ここに来ている全団体を順次訪問したい。

⑥【Apolon】（京都府京都市）

代表は立命館大学の2年生。京都市内の大学生を主に講師としている。

スタッフの人数は30人弱。

アポロンの由来。ギリシャ神話で太陽の神。3年前にできた団体。

本来のスペルはApollonだが。エルが1つ抜けてしまった。

来ている子どもは生活困窮家庭。京都市のかけはし事業（中3学習会）

もともとは京都市からの委託事業。京都市→YS協会→アポロン

（社団法人YS協会、若者向けの事業をしている。ここからの委託）

中学3年生が中心、通信制高校生徒もきている。

基本的には中学3年生の兄妹であればOK

京都市の福祉部に勤務されている方から呼びかけてもらっている。

子どもたちの数は10人弱。毎週金曜日の18時から20時に実施。

1対1もしくは2対1の個別指導。

来ている子どもは勉強したくないし収入もない。

うちのコンセプトは2つ。居場所支援と学習支援

どちらかでないに対応できないのではないかとよくいわれるが、

自分自身の考えでは共存できると考えている

というのは、まずは場に慣れる必要があるから。

将来も決まってない、夢もないという中で、大学生は年齢が近いので、

まずは、趣味の話をする。子どもたちの好きそうなカルチャーを中心に。

信頼関係を築いた後に（居場所支援）→学習支援に移行。

なかなか居場所支援から抜け出せないこともある。

子どもたちの大事な居場所

普段からコミュニケーション取るのはもちろんのこと

今年度は計画していないが、クリスマス会もある。

今年の夏に進路相談会を行った。1日使って、自分の進路と向き合う。

自己肯定感が低い。将来に対して悲観的な生徒が多い。

目標を立てる、そのことで学習支援の方に向けさせる、

スタッフの集め方は、スタッフは全員大学生。

立命館大学の登録団体であり、サークル活動の一環。

新入生歓迎のチラシ配りによる広報。

中京区内に11拠点ですが、将来的には、京都市全体で広報をしたい。

*大学での新入生歓迎

*中3学習会での合同説明会

アポロンの長期的な目標。

スタッフに必ず言っていること。

「スタッフにとっても生徒にとっても可能性を最大限に発揮できる居場所にしよう。」

子どもに与えたものよりも子どもから得たものの方が大きい。

色んな価値観を身につけることができる。

計画段階の事業の1つとして、中学を卒業して、働かないといけない子どもが多いので、再義務教育の事業を考えている。

京都には町家があって、町家が空いているから、憩いの場にしたい。

⑦【ほ도가や無料塾】

代表は横浜国立大学の3年生。活動報告（資料）。

2013年4月に地域の有志によって立ち上がった。

最初は12人、口コミで中学生が15人、小学生が11人。

会場のキャパが24人。講師の確保が困難を極めている。

退職教員と横浜国立大学の学生。OB、横浜市職員。

生徒は口コミによる増加。参加資格は設けていない。

多様な人がいる。無料塾だが会費を頂いている。

今年度から市からの助成金を頂いている。

10万円の支給をもらった。

横浜国大パートナーシップ事業になっている。